

# ますだ通信ご挨拶

vo 1. 7

2011・1・1

Copyright 増田敏子

## 昨年はがん看護研修にいきました

昨年9月から11月まで癌看護研修に行っていました。

いま、癌は2~3人にひとりになる病気ということで、がん対策は健康を守る上での国の重要課題となっております。癌は、小児から大人までかかる病気で、今でも不治の病といえます。しかし、治療は日進月歩で研修中にも次々に新しい薬品、治療法が紹介されました。また、平成25年には九州新幹線新鳥栖駅前に九州国際重粒子線がん治療センター開設の予定もあり、癌治療は目覚ましく進歩しております。しかし、手遅れになったらせっかくの福音も手に入れることができませんので、癌検診には積極的に受診されるようにお勧めいたします。一に癌になりにくい生活習慣、つまり、禁酒・禁煙、食習慣、肥満、と生活習慣を今一度見直していくことといえます。私自身はまず、肥満の解消が課題ですが、皆様と一緒にお互いの課題を今年は是非、解決したいと思っております。とにかく癌は予防と早期発見が大切なことだと心の底から実感しました。

では、予防も早期発見もできないで癌になったらどうしたらよいのでしょうかと悩まれる方もいらっしゃると思います。痛みなどの苦しみを想像して不安になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。“緩和ケア”という言葉をお聞きになったことはありませんか？“手だてがなくても見捨てない”これが医療の根本精神です。医療者は決してそういう方たちを見捨てることはありません。苦しむ人たちを最後まで側にいて癒すケアが緩和ケアです。からだの痛みはもちろんのこと、心の痛みにも気を配り、病気の人ご自身が誇りを持って最後まで生き通されるよう関わって行くのが緩和ケアです。この分野も非常に研究発達し、普及してきておりますので頼みになるとおもいます。私達も在宅で癌の療養をされる方が、ご希望になれば、是非、訪問診療・看護という形で拠点病院、訪問看護ステーションとの協力のもとでお応えしたいとおもっております。しかし、まずは予防と早期発見であることを忘れないで、癌は仕方のない病気にならないようにお互いに頑張ってもらいましょう。

## 病気の子供がすくなくなります・・・

小児の病気は感染症が多くをしめておりますが、今年より、小児肺炎球菌ワクチン、Hibワクチン接種に費用助成がされるようになります。経済的負担が多く、受けたくてもためらっていた方たちも、積極的に接種されるようになるでしょう。このことは、髄膜炎、菌血症の減少につながり、病気で苦しむお子さんが減り、障害を残したり、命を落とすお子様が減ると予測されております。子供たちへの大変な福音です。未来を受け継ぐ子供たちは健康で幸せであってほしいと心から願わずにはおれません。親御さんの安心は図り知れないと思います。よかった。ホッと安心です。

